

太宰府中学校3学年だより

No.20

R5. 2.17

文責：3学年主任

残り3週間に寄せて

私立前期入試、公立推薦入試が終わり、残すところ公立一般入試となりました。

15日に配布した「進路通信 (La Carriere)」で、3年生は3種類の人間に分けられること、それぞれのめざすところは違えど、皆でよりよい進路の実現に向けてひとつになろうという話をしました。

「コロナ禍の中で無事入試を終えることができるのか」今年はそのことばかり気になっていましたが、ここまで無事に皆さんが入試を終えることができたことに、先生たちはとても安堵しています。

ここまでやっとたどりつくことができたのは、皆さんの努力もあるでしょうが、健康な体で入試に向かえるように様々な場面で支えてくださったおうちの方や地域の方などのおかげです。

高校に進学すれば、中学校とは桁違いにお金がかかります。高校は義務教育ではないからです。

そのお金を当然のように出してくださることに、改めて感謝しなければなりません。

どうしてこのようなことを書いているのか、それはたまたま目にした雑誌の一部を読んだからです。

右のコラムは、ウクライナの少女が書いたものです。皆さんも知ってるように、現在もウクライナでは戦争が続き、毎日多くの犠牲者が出ています。連日報道される光景に、目を背けたくなる現状とともにこれらの光景を見慣れてしまっている現状も、新たな問題になっています。

少女は、コラムの中で「人は失って初めて、そのものの大切さに気づくといいますが、本当にその通りです」と書いています。私たちの生活からは想像できない厳しい生活を送っているウクライナの人々は、どんな思いで極寒の日々を暮らしているのだろうと感じずにいられません。いつ爆撃で命を落とすかもわからない中で、果たして生きていく力もなくなってしまうのではと思います。

しかし、彼女はこの悲惨な状況に屈せず、「幸せに生きる」ことへの執着と希望をもちはじめました。彼女は、多くの人々の支援で家族と離れて日本で暮らすことになりましたが、かつてのように「漠然としたふわふわとした夢」を追うのではなく、「毎日を精一杯生きる」ことをかみしめていくと心に決めました。「当たり前の幸せ」とはどういうことかを感じ、希望を捨てずに生きる彼女の心の強さを、このコラムから深く感じることができました。

進学が決まった人も、これから第一希望の入試に臨む人も、そしてまだ進路先が決まっていない人も、この1年の進路選択と実現を通して、受験勉強以外の多くを学んだことでしょう。

苦手な勉強に向かうきつさ、友達の温かい励まし、ライバルと競い合って問題を解く楽しさ、先生からの叱咤激励、授業中の何気ない笑い、おうちの方の送迎や弁当作り、バスの運転手さんの気遣い……

義務教育も残り3週間となりました。ここでちょっとこれまでの自分の1年間を振り返ってみて、「当たり前のことができる幸せ」とは何かを振り返ってみてはどうでしょうか。

☆保護者の皆様

2月6日付で、卒業証書授与式の案内と保護者用の検温カードを配布しました。(青い紙です)お手元には届いているでしょうか。当日は10時開式ですが、保護者受付は9時30分～45分です。また、諸般の事情により、内容や方法が変更されることもあります。予めご了承ください。